

県内復興・経済日誌（2020年2月）

1日

《「ふくしまの酒まつり」開催》

ビッグパレットふくしま（郡山市）で、県内で初の試みとなる県産日本酒最大のPRイベント「ふくしまの酒まつり」が開催された。県内全58蔵元の157銘柄が集い、日本酒ファンが思い思いに飲み比べを楽しんだ。

4日

《1月倒産件数、震災後初の2桁台》

東京商工リサーチ郡山支店が発表した1月の県内企業倒産状況（負債額1千万円以上）によると、倒産件数は10件（前年同月比8件増）と、1月単体では震災後初めての2桁台となった。

5日

《2020年度福島県当初予算案発表》

内堀雅雄知事は、約1兆4,418億円とする県の2020年度一般会計当初予算案を発表した。復興・創生期間の最終年度であることを踏まえ、震災後に積み重ねてきた成果を次の段階につなぐ取り組みを進めると強調した。

8日

《会津若松市と日光市、観光振興で連携協定締結》

会津若松市と栃木県日光市は、観光振興に取り組む連携協定を締結した。両市の観光資源を結びつけ、外国人観光客を含む新たなニーズの獲得や滞在型観光の推進を目指す。

10日

《新銘柄米名称、「福、笑い」に決定》

県は、県産の高級ブランド米として開発した独自品種の名称を「福、笑い」に決めたと発表した。2021年秋から本格的に販売する。東京電力福島第一原発事故の風評被害を受けてきた県産米の復活へ、先導役として期待される。

14日

《あんぼ柿、タイとマレーシアへ輸出》

県は、県北地方特産の干し柿「あんぼ柿」を東京電力福島第一原発事故後初めて輸出したと発表した。タイが285.2kg、マレーシアが36.8kgで、現地の日系スーパーで販売される。

19日

《双葉町にビジネスホテルが今秋開業》

双葉町は、ホテル運営会社アルムシステム（北海道）と企業立地協定を結んだ。同社は、避難指示が解除された同町中野地区復興産業拠点内にビジネスホテル3棟（計134室）を建設する。

21日

《川俣シャモ、JGAP取得》

「川俣シャモ振興会」が、農産物の安全性などを管理するGAPの国内認証JGAPの団体認証を取得した。肉用鶏の団体認証は全国で初めてで、関係者は「川俣シャモの品質と安全性が評価された」と更なる販路拡大に期待している。

25日

《2020年度から県庁で「地方副業」開始》

県は新年度、首都圏の会社員らに副業として県庁で働いてもらう新たな取り組みを始める。大企業を中心に副業解禁の動きが広がる中、専門的な技術や能力、経験を有する人材のアイデアを県の施策に生かす。

26日

《食味ランキング、県産米3年連続日本一》

日本穀物検定協会は、2019年産米の食味ランキングを発表した。本県からは6産地銘柄のうち4産地銘柄が最高評価の「特A」となり、都道府県別の特A獲得数が山形県と並び全国最多で、3年連続の日本一を達成した。

28日

《南相馬市のスーパー、約9年ぶりに再開》

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故で休業していた南相馬市原町区の「ヨークベニマル原町店」が、約9年ぶりに再開した。同店はJR常磐線原ノ町駅前に立地しており、3月14日の常磐線全線再開などを踏まえ、中心市街地活性化などが期待される。

「主要経済指標」は、弊所ホームページに掲載しております。

掲載箇所：<http://fkeizai.in.arena.ne.jp/kikanshi/shihyou>

